

研究タイトル：身体的リズムの引き込みを導入した 身体的インタフェースの研究

氏名：長井 弘志 / NAGAI Hiroyuki E-mail: h_nagai@mech.yuge.ac.jp

職名：教授 学位：博士(工学)

所属学会・協会：日本機械学会, 情報処理学会, ヒューマンインタフェース学会

キーワード：ヒューマンインターフェース, ヒューマンマシンインタフェース, ヒューマンコミュニケーション, 組み込みシステム

技術相談
提供可能技術：
・インタラクションロボット(ハード、ソフト)の開発
・コミュニケーション用組み込みシステムの開発



研究内容：

・身体的コミュニケーションシステム

人は、単に言葉だけでなく、うなずきや身振りなど身体によるリズムを共有して、互いに引き込むことでコミュニケーションしている。この身体性の共有が、一体感を生み、人とのかわりを実感させている。これまで、身体的リズムの引き込みをキャラクタなどのメディアに導入し、対話者と身体性を共有してインタラクションを円滑にするシステムを開発し、コミュニケーション支援の有効性を示してきた。

・身体的インタラクション玩具の開発

インタロボット(株)と(株)セガトイズとの共同で、人の語りかけに対して双葉が聞き手のようにうなずき動作などの身体的リズムの提示を行う電子玩具“ペコッぱ”の開発を行っている。“ペコッぱ”は、から2008年9月に一般発売され、ヒット商品となった。さらに、語りかけに対して人を呼び込む動作や2本の花が個別にうなずく動作などを追加した“花っぱ”を開発し、2009年6月に一般発売された。



・現在の研究

現在は、本成果を発展させる方向で、この身体的リズムの引き込みをマン・マシンインタフェースに導入し、使用者からの音声入力を促す入力方法や使用者の注意を引きやすい提示方法など、使用者が人とコミュニケーションをするように快適に情報の入出力が行える身体的インタフェースを研究している。

さらに、視覚・聴覚・触覚など、複数の感覚に対しマルチモーダルに人との「つながり感」を提示するコミュニケーションシステムの研究を行っている。とくに、タッチパネルを用いた入出力インタフェースについて研究しており、科学研究費補助金(若手研究(B))(2010年～2012年)に採択されている。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	